

第 3 回 函館市観光振興財源検討委員会 議事概要

1 開催日時，場所

(1) 日 時 令和元年 9 月 25 日 (水) 18:00 から 19:15 まで

(2) 場 所 市役所本庁舎 8 階第 1 会議室

2 議事

(1) 第 2 回検討委員会議事録の承認について

(2) 観光振興に関する財源確保策の検討について

ア 観光振興に関する財源確保策の検討について

(まとめ)

- ・ いろいろな意見があるなかで，反対意見は利害が対立している部分であるから，宿泊事業者の負担を軽減するような方法を委員会で検討するなど，できる限りその部分を取り除き，宿泊税という形で進めていくことが，一番得策であると考えます。
- ・ 宿泊事業者の負担を軽減することを前提に，宿泊税の導入ですすめる。

(意見)

- ・ 観光税の課税方法としては，飲食，施設利用，宿泊等に課税客体を求める方法があるが，課税客体が広く他種目になると課税の公平，簡素，明確さが崩れるため，課税客体を絞り込む必要がある。
- ・ 総額が，ある程度の金額を支払うもので観光税が数%くらいに収まるものなら抵抗感なく支払える。
- ・ 税の公平性や，徴収手続が繁雑になることを避けることを考えると，宿泊者に一部の受益の負担をしていただく宿泊税という形に落ち着くと思う。
- ・ 徴収の幅を広げて観光客が行く先々で，税を徴収するというのは，観光客に良いイメージを与えず，リピーターの減少に繋がる。
- ・ 導入にあたっては，宿泊施設の意見を聞きながら，どういう形であれば納税してもらえるか，詰めていくことが今後の課題だと思う。

イ 提言書の付言について

(まとめ)

- ・ 定額制・定率制の選択，3～5年毎の制度の見直し，北海道との調整，入湯税の減額，宿泊事業者へのサポート，宿泊税を宿泊者の増加に結びつける施策やオーバーツーリズム対策への充当などを附帯意見に取り込んで提言書にまとめていきたい。

(意見)

- ・ 今後，函館市のホテル・旅館の部屋数が大幅に増えるので，函館市の宿泊客数を増やす施策を考えて欲しい。
- ・ 制度設計は，3～5年で見直すことを明確にするべきである。
- ・ オーバーツーリズムの問題はあまり騒がれていないが，市民レベルでは，けっこう困っている。消費税の軽減税率の問題として，コンビニで購入し店外で食べることが増えると思うが，コンビニのゴミ箱がなくなっていて，町中にゴミが散乱する恐れがある。同様にトイレの問題があって，この部分には，予算をしっかりとかけていくべきである。
- ・ 宿泊税については，北海道と調整をしっかりと行って欲しい。
- ・ 定額・定率それぞれメリット・デメリットがあるので，細かいところを研究しながら選定していくことが必要だと思う。
- ・ 各部屋で宿泊人数が違っていると，ルームチャージの金額が同じでも，1人1人の宿泊料は，それぞれの部屋ごとにその部屋の宿泊人数で割って計算する必要があることから，3千円が何人，5千円が何人，などを出すことは大変である。
- ・ 定率制は，安いところからも全て取れると思うが，定額制の場合は，ある程度，免税点を作らないと不公平になるのではないか。